

だれもが 文化でつながる 国際会議2024

1 カンファレンス（招待講演／基調講演、セッション、事例発表、分科会）

【期間】 11月1日（金曜日）～3日（日曜日・祝日） ★要事前申込み

【会場】 東京国際フォーラム

招待講演／基調講演、セッション、事例発表：ホールB5

分科会：会議室 G502・G510

3日間にわたって、招待講演／基調講演、4つのセッション、2つの事例発表、8つの分科会を行います。「文化と居場所」をテーマに、様々な事例や実践を共有して活発に議論し、国内外の専門家・実践者などの多様な参加者が学びあう場とします。

○招待講演「Clin d'Oeil（クランドウイユ）ろう者の祭典」

11月1日（金曜日）13:00-14:00

デイビッド・デ・キーザー 「クランドウイユ」ディレクター

ろう者のパフォーマーと観客が世界中から集まるフランスのフェスティバル「クランドウイユ」ディレクターによる招待講演



○基調講演「共にいるための場を創る—対話とアウトリーチから学んだこと」

11月1日（金曜日）14:15-15:15

梶谷 真司 東京大学大学院総合文化研究科教授

共生についての研究者であると同時に、学校教育、地域コミュニティなどで居場所について「共に考える場」をつくる活動を行う実践者による基調講演



○セッション 国内外の各分野におけるキーパーソンと問いを深める対談を実施

①「はたらく人とウェルビーイング」 11月1日（金曜日）15:30-17:30

歴史的に多文化共生が社会に根付いているオーストラリアの活動と研究を学びながら、ウェルビーイングのために芸術文化はどうあるべきか議論を深め、働く人や企業、団体がアートでどのようなアクションを起こしていけるのか考えます。



栗栖 良依

パラ・クリエイティブプロ
デューサー/ディレクター



内田 まほろ

JR東日本文化創造財団 TAKANAWA
GATEWAY CITY 文化創造棟準備室長



ジョージ・マククリーン

クリエイティブ・オーストラリア
エグゼクティブディレクター



松田 朋春

プランナー、詩人

② 「日常とアートと教育」 11月2日(土曜日) 10:00-12:00

芸術大学や美術館等のアートセクターが、福祉、医療、テクノロジーといった異なる分野と地域で共創する取組が、共生社会の実現を近づけるのではないのでしょうか。そのような共創の場を生み出すために、芸術文化に求められるこれからの役割や活動は何かを探っていきます。



日比野 克彦
東京藝術大学長



Photo:
Christine Rivera

リサ・フィリップス
ニュー・ミュージアム・オブ・
コンテンポラリー・アート館長



Photo:
Kohei Omachi

妹島 和世
東京都庭園美術館館長

③ 「文化機構の社会参画」 11月2日(土曜日) 15:30-17:30

東京という大都市圏において、文化施設はどのように多文化共生の課題に取り組むべきでしょうか。大都市圏の美術館や芸術祭で実績のあるゲストを迎え、東京がこれから取るべきアクションについて議論を深めます。



片岡 真実
森美術館館長



ジュン・ヤップ
シンガポール美術館学芸部長



コズミン・コスティナシウ
世界文化の家シニアキュレーター

④ 「『分かり合えない』を分かち合う」 11月3日(日曜日・祝日) 10:00-12:00

共感の前に立ちはだかる様々な壁を乗り越えるには、何が必要となるのでしょうか。多様な分野から集った登壇者が個人的経験を交えて対話し、共感のあり方を体験します。また、人と人とのコミュニケーションの際に、アートがどのように寄与できるのか議論します。



志村 季世恵
ダイアログ・ジャパン・
ソサエティ代表理事



アンドレアス・ハイネッケ
ダイアログ・ソーシャル・
エンタープライズ創設者



マンディ・ハーヴェイ
シンガーソングライター

※クロージングセッションも開催

4つのセッションを受けて、居場所をつくるために求められるネクストビジョンを語ります。

登壇者：梶谷 真司(東京大学大学院総合文化研究科教授)、デイビッド・デ・キーザー(「クランドウイユ」ディレクター)、モーウェナ・コレット(コンサルタント、ディレクター)、熊倉 純子(東京藝術大学大学院国際文化創造研究科長、教授)

○事例発表 アクセシビリティについて様々な分野をリードする事例発表

海外ゲストも含めた文化施設の現場の実践者や専門家のプレゼンテーションを行います。
国内外の実践事例を共有し、参加者とともに今後の展開の可能性を探ります。

①・演劇で問う社会課題「Both Sides, Now」での取組から

登壇者：コク・ヘン・ルン（ドラマボックス創設者）

・ろう者のオンガクを追求する

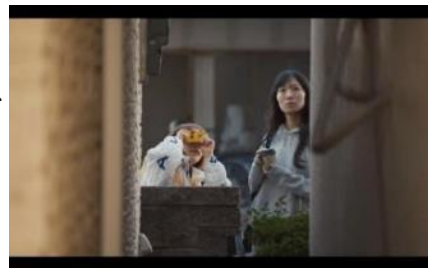
登壇者：牧原 依里（一般社団法人日本ろう芸術協会代表理事、
映画作家、アーティスト）

・居場所を創る建築家

登壇者：金野 千恵（建築家）

②KINOミーティングの手法

登壇者：阿部 航太（デザイナー、文化人類学専攻）
テイ・ウシン（翻訳者、映画監督）



事例発表②で上映する映画
「ニュー・トーキョー・ツアー」（2022）

○分科会 「文化と居場所」に関わる実践を紹介し、ウェルビーイングを共に考える

①演劇でつなぐ多文化社会

登壇：田室 寿見子（東京芸術劇場）、ベアタ・アンナ・シュムッツ（マンハイム国立劇場）
モデレーター：ミン・ジンキョン（北海道教育大学岩見沢校芸術文化政策研究室准教授）

②劇場体験を拡張させる鑑賞・参画サポートのデザイン

登壇：月橋 朋子（東京文化会館）、請川 幸子（彩の国さいたま芸術劇場）
モデレーター：中村 よしき（東京文化会館）

③アクセシビリティの向上と文化施設のみらい

登壇：駒井 由理子（アーツカウンシル東京）
関根 千佳（株式会社ユーディット会長）
佐野 広大（日本科学未来館）

④認知症と向き合うアート

登壇：藤岡 勇人（東京都美術館）、佐伯 賢（ほうらい地域包括
支援センター）、リウ・ジェンリャン（台北市立連合病院）
モデレーター：熊谷 香寿美（東京都美術館）

⑤共生する場のづくり方

登壇：加藤 甫（写真家、Studio oowa主宰）
小田井 真美（さっぽろ天神山アートスタジオ AIR ディレクター）

⑥インクルーシブな劇場をつくるためには

登壇：長津 結一郎（九州大学大学院准教授）
平井 徹（KAAT神奈川芸術劇場）

⑦ろう者による芸術の手話解説 —イギリスのBSLガイドの事例に学ぶ

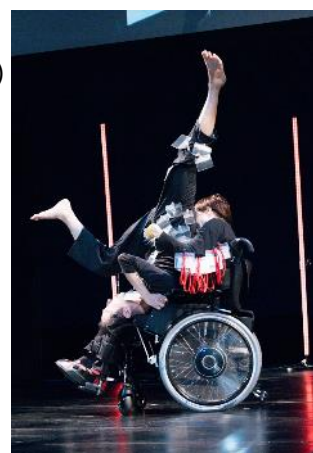
登壇：管野 奈津美（Re; Signing Project）
南村 千里（パフォーマンスアーティスト、芸術解説者）

⑧文化施設のアクセシビリティ —オランダでの取組

登壇：佐藤 麻衣子（アートエドゥケーター）
カテライン・デネカンブ（アムステルダム国立美術館）
モデレーター：八巻 香澄（東京都現代美術館）



分科会④国立台湾博物館「博物館処
方箋 実践ガイドブック」の日本語版
発行：東京都美術館



分科会⑥穂の国とよはし芸術劇場
「視覚・聴覚に障がいのある方
対象のPLAT劇場ツアー」

【期間】 10月29日（火曜日）～11月3日（日曜日・祝日）

【会場】 東京国際フォーラム 地下1階 ロビーギャラリー

最新のアクセシビリティ支援デバイスを体験できるブースや、多様なアーティストによる触れる作品などを展示します。

この他に、視覚障害者との取組を行っている落語家・春風亭昇吉による落語や、東京都の文化施設によるアクセシビリティへの新たな取組を記録した写真の展示、海外にルーツをもち日本で社会生活を送る人たちの「Home」を探るドキュメンタリー映画の上映などを行います。

【最新機器の体験】



FILLTUNE
「FILLTUNE CLEAR」



QDLーザ
「RETISSA ON HAND」

【触れる作品などの展示】



一昨年度の国際会議の様子

鈴木康広 「ワークショップ 好きと嫌いの詩」

日常の見慣れた事象に新鮮な切り口を与える作品によって世界の見方を問いかけるアーティスト・鈴木康広が、代表作《まばたきの葉》など、アーティスト自身にとっての「居場所」を表現する作品等を展示します。

また、参加者が「文化と居場所」について考えるきっかけとなるワークショップを開催し、作品をみんなで作っていきます。



Photo: Timothée Lambrecq



《まばたきの葉》2003
Courtesy of SPIRAL/Wacoal Art Center
Photo: Katsuhiko Ichikawa

3 ネットワーキング

登壇者が登壇後に集まり、参加者や企業・団体、クリエイター等とつながり、知見を交換する交流サロンを開設します。

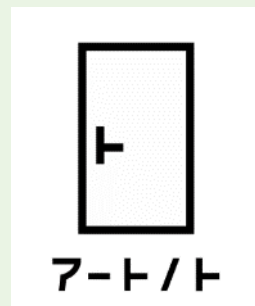
【期間】11月1日（金曜日）～11月3日（日曜日・祝日）

【会場】東京国際フォーラム ホールB5 ロビー

アーティストや芸術文化の担い手の持続的な活動をサポートする東京芸術文化相談サポートセンター「アートノト」の出張相談コーナーも開設します。

【期間】10月29日（火曜日）～11月3日（日曜日・祝日）

【会場】東京国際フォーラム 地下1階 ロビーギャラリー



4 コミュニケーションラボ

★一部要事前申込み

【期間】10月29日（火曜日）～11月3日（日曜日・祝日）

【会場】東京国際フォーラム 地下1階 ロビーギャラリー

意思疎通のあり方について、参加者が共に考え、体験できるワークショップ等を行います。

・「わたしの世界・あなたの世界」

様々なコミュニケーションキットを使用して、触覚などをたよりにコミュニケーションをとるワークショップを行います。

メインファシリテーター：和田 夏実 協力：めとてラボ



和田夏実によるワークショップの様子

・「<ふれてみる>ってどういうこと？」

盲児教育の教材を使い、視覚に障害のあるこどもたちが視覚以外の感覚で空間をどのように捉え、認識していくのかを体験します。

監修：茂木 一司（跡見学園女子大学教授）・大内 進（星美学園短期大学客員研究員）

その他、聴者とろう者・難聴者が一緒にゲームに参加し助け合うことで解いていく謎解きゲームや、「やさしい日本語」のワークショップ、デフリンピックの紹介コーナー等を設置します。

	ロビーギャラリー	ホールB5	会議室G502	会議室G510
10月29日(火)	ショーケース ネットワーキング コミュニケーションラボ			
10月30日(水)				
10月31日(木)				
11月1日(金)		開会式・オープニングパフォーマンス 招待講演・基調講演 セッション1		
11月2日(土)		セッション2・3 事例発表1	分科会1・2	分科会5・6
11月3日(日)		セッション4 事例発表2 クロージングセッション	分科会3・4	分科会7・8